

「もったいない！」を喜んでくれる人たちの笑顔のために

福島県立平工業高等学校 生徒会

I 動機及び目的

本校の様々な活動のほとんどは、生徒会の先輩方が自ら考え立ち上げてきたものである。そして、その思いを後輩達が受け継ぎ現在まで継続している。私たちの活動の原点は「もったいない精神」から始まった。そのまま捨ててしまえばゴミになってしまう、CO₂の排出につながってしまうものを上手く活用できないかと考え、アルミ缶回収を始めたことをきっかけに、ペットボトルキャップの回収やジャージ・運動靴などの回収が始まった。アルミ缶は車椅子に、ペットボトルキャップはポリオワクチンになり、ジャージや運動靴はマリ共和国への支援物資として発送している。本校生徒会の活動理念は「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」である。私たちもボランティア活動を行ううちに活動理念を実感できるようになり、やりがいや喜びを感じ、楽しみながら活動している。本来ゴミになってしまう物の価値に注目したこれが私たちの活動のはじまりである。

II 活動項目

- 1 社会貢献活動
 - (1) アルミ缶回収による車椅子寄贈
平成29年9月30日 第39・40号
- 2 国際貢献活動
 - (1) 国際貢献活動Ⅲ
使用済みインクカートリッジの発送
平成29年2月13日(第9回)
 - (2) 国際貢献活動Ⅳ
アフリカ・マリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動
ア 発送式 平成29年10月19日
(第12回)
イ ジャージ・運動靴の回収 [毎年1月]
 - (3) 国際貢献活動Ⅴ
ペットボトルキャップ回収による世界の子供たちにワクチンを贈る活動
[1300人分達成]
平成29年4月7日(第9回)
- 3 公開文化祭(平工祭)
平成29年11月19日
ア 活動報告書の配布(300部)

イ ポスター掲示

- 4 研修会
 - (1) いわき地区の有志高校生徒会春季合同研修会 平成29年4月6日(第16回)
 - (2) 生徒会執行部・HR役員リーダー研修会 平成29年6月17日、18日(毎年)
 - (3) 生徒会執行部・OB会夏季合同研修会 平成29年8月9日、10日(第13回)
 - (4) 老人ホーム慰問 平成29年9月30日(第16回)
 - (5) 保育所訪問 平成29年12月26日、27日(第18回)
 - (6) 福島県内の有志高校生徒会ニューリーダー冬季合同研修会 平成29年3月3日～5日(第20回)

III 実施状況

- 1 継続期間(社会貢献及び国際貢献活動)
 - (1) アルミ缶回収による車椅子寄贈
平成14年～現在
 - (2) 使用済みインクカートリッジの回収
平成17年～現在
 - (3) アフリカ・マリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動
平成18年～現在
 - (4) ペットボトルキャップ回収による世界の子供たちにワクチンを贈る活動
平成20年～現在
- 2 活動内容
 - (1) アルミ缶回収による車椅子寄贈
毎日放課後、ゴミステーションからアルミ缶を集め、これらを保管しておき半年に一度換金して車椅子を購入し老人ホームに寄贈している。
 - (2) 使用済みインクカートリッジの回収
先生方に協力をいたたぎ、インクカートリッジ・トナーカートリッジを集め、生徒会倉庫に保管し、ある程度の量になったら発送している。
 - (3) アフリカ・マリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動
卒業する先輩方が不要になったジャ

ージや運動靴を卒業時に寄付してもらい、洗濯・箱詰めを行い、マザーランドアカデミーを通して、アフリカ・マリ共和国の子供たちへ贈っている。

(4) ペットボトルキャップ回収による世界の子供たちにワクチンを贈る活動

在校生や先生方、地域の方々の協力をえてペットボトルキャップを集め、生徒会倉庫に保管し、300kg以上になったら発送している。

(5) 活動のPR

公開文化祭を利用し、生徒会本部付近で活動報告書の配布やポスター掲示を行った。

(6) 研修会の実施

本校生徒会では「自ら考え行動できる生徒会役員」を目指し、様々な研修会を企画し実施している。また、これらの様々な研修会を通して先輩方の思いを受け継ぎ、他校へも活動の実施を呼びかけている。

IV 評価(反省と課題)

捨てればゴミになり、燃やせばCO₂を排出してしまう物資でも、それらを有効活用すれば焼却を回避でき、人の役に立つものがたくさんある。結果的にCO₂を削減でき、今問題となっている地球温暖化の防止につながる。これらのことに目をつけた私達の先輩方は自ら様々なことを調べ、多くの活動が生まれた。その先輩方の思いを受け継ぎ、それらの活動は現在も継続している。また、私たちの活動は、地域の方々に支えられている。地域の方々に頂いた支援物資は、頂いた方の思いも込めて一緒に送る。洗濯だったり箱詰めだったり、送るまでには様々ないくつもの作業があるが、一つ一つ携わるたびに、様々なことを感じ心に刻まれている。感じることは個人個人で違うかもしれないが、やはり自分にとってはプラスのことばかりだ。エコ活動に関連したボランティア活動をすることで、人の「やさしさ」が分かる人間になれるのだと思う。それはこれから自分の長所になって、長所はいずれ性格に、そして自分自身になる。様々な活動が自分自身を作る、と言っても過言ではない気がする。だから私たちはこれからも、自分のために、そして「すべては喜んでくれる人達の笑顔のために」リサイクル活動で環境問題に取り組み、後輩達に思いをつないでいきたい。



アルミ缶の業者引き渡し



老人ホームへ車椅子寄贈 (第39・40号)



第12回マリ共和国へ支援物資積み込み



第12回マリ共和国支援物資発送式